

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第19週	第19週	第20週	増減	第19週	第20週	増減	第19週	第20週	増減	第19週	第20週	増減	第19週	第20週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	2072 0.42	39 0.81	25 0.52	▼	25 1.25	14 0.70	▼				8 0.80	6 0.60	▼	6 0.46	5 0.38	▼	16146
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	803 0.25	9 0.30	8 0.27	▼	5 0.38	4 0.31	▽				4 0.67	3 0.50	▼		1 0.13	△	288
咽頭結膜熱	1952 0.62	34 1.13	30 1.00	▽	8 0.62	8 0.62			5 1.67	△	23 ◎3.83	14 ◎2.33	▽	3 0.38	3 0.38		312
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9014 2.85	113 3.77	130 4.33	▲	57 4.38	76 5.85	▲	11 3.67	2 0.67	▽	31 5.17	37 6.17	▲	14 1.75	15 1.88	▲	2329
感染性胃腸炎	21306 6.74	241 8.03	336 11.20	▲	97 7.46	133 10.23	▲	25 8.33	24 8.00	▼	55 9.17	59 9.83	▲	64 8.00	120 15.00	▲	3174
水痘	1645 0.52	16 0.53	4 0.13	▽	12 0.92	3 0.23	▽				4 0.67	1 0.17	▽				235
手足口病	1348 0.43	5 0.17	9 0.30	△	4 0.31	7 0.54	▲				1 0.17	2 0.33	△				259
伝染性紅斑	423 0.13	10 0.33	22 0.73	▲	1 0.08		▽				9 1.50	22 ◎3.67	▲				116
突発性発しん	2016 0.64	19 0.63	14 0.47	▽	2 0.15	3 0.23	▲	1 0.33	3 1.00	△	10 1.67	4 0.67	▽	6 0.75	4 0.50	▽	285
ヘルパンギーナ	155 0.05	5 0.17	4 0.13	▽	4 0.31	2 0.15	▽					2 0.33	△	1 0.13		▽	40
流行性耳下腺炎	621 0.20	3 0.10	4 0.13	▲	3 0.23	2 0.15	▽		1 0.33	△					1 0.13	△	56
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	23 0.03																
流行性角結膜炎	818 1.17	6 0.75	1 0.13	▼	5 1.25	1 0.25	▼							1 0.50		▽	29
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	138 0.29	2 0.20	1 0.10	▽	1 0.25	1 0.25								1 0.33		▽	19
クラミジア肺炎	6 0.01																
マイコプラズマ肺炎	65 0.14	1 0.10	2 0.20	△		2 0.50	△							1 0.33		▽	53
細菌性髄膜炎	13 0.03																4
無菌性髄膜炎	8 0.02																3

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
腸管出血性大腸菌感染症	無症状病原体保有者				1	型別:O121 VT2。
つつが虫病	患者	1				
レジオネラ症	患者	1				
侵襲性肺炎球菌感染症	患者	1			1	※内、第19週追加報告1人。ワクチン接種歴:無し1人、不明1人。
播種性クリプトコックス症	患者	1				
百日咳	患者	4				※内、第19週追加報告3人。ワクチン接種歴:4回2人、不明2人。大人1人、小児3人。
結核	患者	1				※第19週追加報告分。

<通信欄>

※インフルエンザの迅速キットによる型別は、A型:24件、B型:1件でした。

集団発生は、村山地区1件(中学校:1)、庄内地区1件(幼稚園・保育所:1)でした。

※トピックスで、伝染性紅斑、百日咳について掲載しています。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ		2	3		3	7	2					6		1	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	1														25
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	3	1	2	1										8
咽頭結膜熱	1	7	9	3	5	1	1	2	1						30
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	6	10	17	14	12	18	11	7	14	15	3	1	130
感染性胃腸炎	3	21	38	31	28	41	34	21	21	25	11	46	2	14	336
水痘					1			2				1			4
手足口病			5	1	1	1		1							9
伝染性紅斑			2	1	1	3	2	4	2	3	2	2			22
突発性発しん		6	8												14
ヘルパンギーナ		1	2	1											4
流行性耳下腺炎						1		2			1				4

< 平成30年4月 月報 >

2018年5月23日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～4月	
	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	22	14	4	7	11	5	2	2	5		74
	定点当り	2.20	1.40	1.00	1.75	11.00	5.00	1.00	1.00	1.67		
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	8	11	2	4	2	3	3	3	1	1	39
	定点当り	0.80	1.10	0.50	1.00	2.00	3.00	1.50	1.50	0.33	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	3	3	1	1			1		1	2	11
	定点当り	0.30	0.30	0.25	0.25			0.50		0.33	0.67	
淋菌感染症	報告数	4	2	1	2					3		9
	定点当り	0.40	0.20	0.25	0.50					1.00		
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	9	11			2	2	2		5	9	29
	定点当り	0.90	1.10			2.00	2.00	1.00		1.67	3.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	21	18	13	11	1	1	1		6	6	72
	定点当り	2.10	1.80	3.25	2.75	1.00	1.00	0.50		2.00	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

< トピックス >

【伝染性紅斑(リンゴ病)情報】

伝染性紅斑の定点当たり報告数が、置賜地区で警報レベルとなっています。

・伝染性紅斑
警報開始基準値:2人 警報終息基準値:1人
・第20週 定点当たり報告数(山形県:0.73人)
村山:0.00人 最上:0.00人 置賜:3.67人 庄内:0.00人

《病原体と感染経路》

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19に感染することによっておこる感染症です。主に小児にみられる疾患ですが、成人もかかる場合があります。感染経路は、くしゃみや咳による飛沫感染と接触感染です。

《症状》

10～20日の潜伏期の後、両頬に鮮明な赤い発疹が現れ(写真1)、続いて手足にもレース様の発疹が現れます。なお、頬に発疹が現れる7～10日前に、微熱や風邪の様な症状がみられることが多く、この時期にウイルス排出量が最も多くなります。発疹が現れた頃にはウイルス量が低下し、ほとんど感染力は消失しています。

予後は通常良好ですが、妊婦が感染した場合、胎児水腫または流産を起こすことがあるので注意が必要です。

《予防法》

伝染性紅斑にはワクチンはありません。また、感染力のある時期には、特徴的な症状を示さないため、日頃からの手洗いなどの一般的な予防法を心がけることが大切です。



写真1: 両頬の発疹

(国立感染症研究所HPより)

※参考URL:IDWR 感染症の話 伝染性紅斑

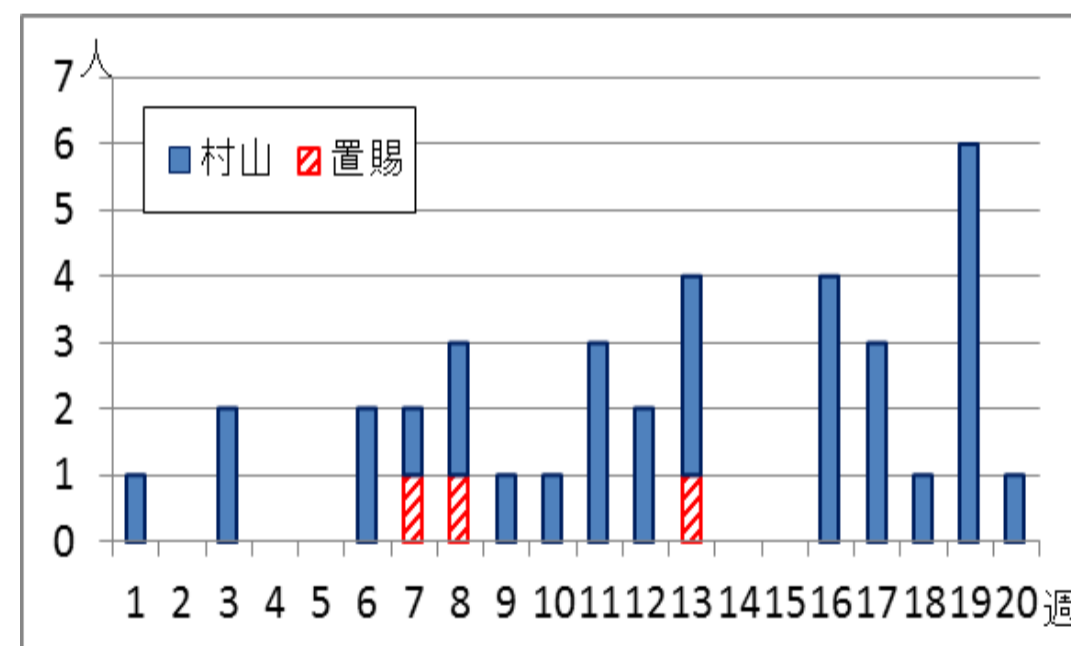
http://idsc.nih.gov.jp/idwr/kansen/k04_23.html

【百日咳情報】

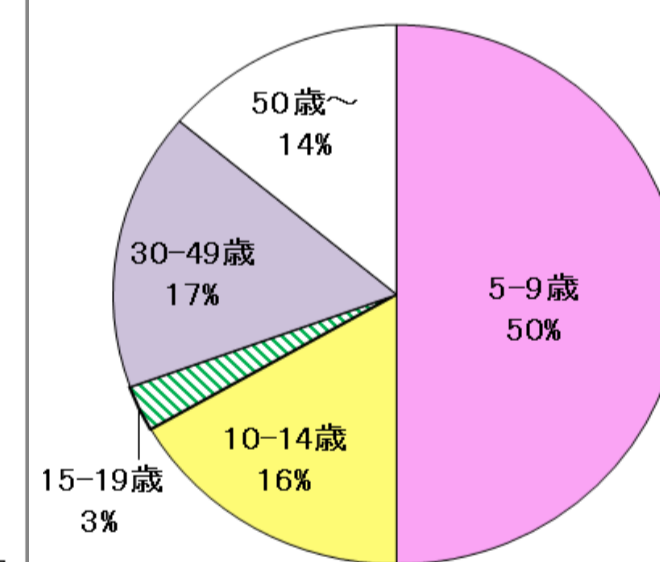
第20週に、百日咳の患者が1名報告されました。百日咳は、平成30年1月1日より全数把握疾患となり、第20週までに36名の患者が報告されています。

・報告数の内訳(第20週現在)

①週別報告数



②年齢別報告数



《病原体と感染経路》

百日咳は、百日咳菌に感染することでおこります。感染経路は、くしゃみや咳による飛沫感染と接触感染です。

《症状》

1週間程度の潜伏期の後、普通の風邪症状で始まります。次第に咳の回数が多くなり、百日咳に特徴的な咳(けいれん性、短い咳の連続)がおこります。その後、激しい咳は落ち着きますが、忘れた頃に発作性の咳が出る状態が続く、症状が出始めてから約2～3か月で回復します。乳児期早期では無呼吸発作が起こり、重症化することがあるので注意が必要です。成人の場合は、典型的な咳は見られませんが、乳幼児への感染源とならないよう注意が必要です。

《治療・予防》

治療として、抗菌薬の投与が行われます。予防法としては、ワクチン接種(4種混合ワクチン)が有効です。しかし、既にワクチン接種を受けたことがある方でも数年経つと免疫効果が減弱し、感染する場合がありますので、咳が長引く場合は医療機関の受診をおすすめします。